

第42回全日本実業柔道個人選手権大会戦評  
(主に当連盟加盟チーム選手を中心に)

男子100kg超級

男子100kg超級は、今年の実業柔道団体優勝チーム旭化成の重量陣が表彰台独占。

優勝した西潟健太四段は接戦を勝ち抜き、準決勝戦ではチームの主将、大鋸新五段と対戦する。

準優勝の新人百瀬優参段も危なげなく勝ち進み、準決勝戦では昨年準優勝、チームの先輩、辻玄太参段と相まみえる。

第3位入賞の大鋸新・五段は得意の右大外刈、右内股を炸裂させて、順当に準決勝戦へ。

同じく、第3位入賞の第1シード選手・辻玄太参段も順当に勝ち進んで臨んだ第5回戦(準々決勝戦)で、須藤紘司四段(京葉ガス)を延長戦旗判定で降して、準決勝戦に。

準決勝戦第1試合

3辻 玄太 (優勢勝) ③3百瀬 優  
(旭化成) (旭化成)

辻が左組み、百瀬は左組み。辻は左釣手で奥襟を握り、右引手を百瀬の前襟を掴んで左変形に構える。百瀬は、左引手で百瀬の袖を握り、右釣手で辻の前襟を突っ張って、受けの構えで対する。1分1秒、手数のない両者に指導1。中盤に入り百瀬が、右内股、右大外刈、右体落を散發する。こうした展開の中、場外際で辻が百瀬の右体落をかわして左内股に入れば、百瀬はこれを受け止め、辻が前に倒れ込むところを自らの股の中で転がして、3分6秒に技ありを奪う。リードを許した辻が、左体落の連発で反撃するも、百瀬は釣手を突っ張り、これを防ぐ。そのまま時間となり、新人百瀬が辻を降す。

準決勝戦第2試合

5大鋸 新 (優勢勝) ④4西潟 健太  
(旭化成) (ゴールデンスコア) (旭化成)

大鋸右、西潟左のケンカ組手。大鋸は、左釣手で奥襟を掴む西潟の組手を右釣手で突き上げて間合いを測る。引手不十分の両者、共に指導2を受けて引分。

延長戦でも大鋸は、右払腰、右大外刈を、西潟が左大外刈を仕掛けるが技の効果なし。西潟は時折、右からの技を試みるも大鋸に通じず。1分48秒に両者揃って指導3を受ける。終盤の2分29秒に西潟の左に入ると見せての左小外掛に大鋸は思わず両手を畳に着

